（明治卅八年壹月廿五日 第三種郵便物認可）

朝鮮日報

（電話第四三〇番）

紀元二千五百六十八年
韓曆光武九年
陰曆[illegible]三月六日

定價 壹ヶ月金[illegible]錢 前金ヲ要ス 郵稅ハ壹ヶ月金拾三錢
廣告 五號活字十九字詰 一行 [illegible]
發行所 韓國釜山港大廳町二十七番地 朝鮮日報社

通信

門司特報（五日發）

特派員 □□生 戰地より休日歸來

▲敵の防禦陣地 □□せる某參謀長の談に曰く渾河以北に於る敵の防禦地と目すべきは長春吉林に亘る線と鐵嶺の線との二線あるに過ぎずハルビンの如きは鐵嶺の外なる外第一線の外に於て何の價値も有せざるなり是を以て敵は敗殘兵を收拾し長春吉林の線に止り我軍を迎へんとするものゝ如く始め敵は渾河の線に於て敗れたらんには鐵嶺を以て之に當る計劃にして其の防禦の完備せる要塞地の防禦と何等異なるを見ざる迄整頓し居りしも我軍の策戰は豫定の如く進行し敗兵の北ぐるを追ふて窮追又窮追殆んど疾風迅雷の耳を掩ふに遑なかりし如くなるを以て敵は此の線にても我を阻止するの餘裕なく僅に少時の抵抗をなし遂に敗走せり斯の如き有樣にて我軍は容易に要害陣地を奪取せり

▲茫然自失の司令官 又曰く此時露軍の滑稽なりしは鐵嶺停車場の占領なりき鐵嶺の市街は遼河の東岸にあり而して鐵嶺停車場は市街の西端にして遼河の右岸に沿て建設され居るが我軍の該停車場に至るや同地司令官其他部下の全隊は我捕虜となれり此等捕虜の談に曰く當時司令官は某旅團を撤退すべき命を接したるを以て其準備をなし居りし際なりしかば日本軍の來るを見て全く自國の軍隊の來りしものと思ひしに案外にも日本軍進來したるを以て逃走するの考だも浮ばず唯茫然自失しおめ〳〵捕虜となりしと其言により敵の狼狽の狀を察するに難からざる也

▲鐵嶺と日章旗 又曰く之に反して鐵嶺の支那人は如何にして斯くの如く速かに日章旗を作りしものか意外なる程早く我軍の其市街に入るに先だち各戶の軒頭に日章旗ならざるはなく而かも道路の爲め家屋の途切れし個所は悉く支那紬類の力めおれり眞紅なる小旗を軒より軒にと縱橫に張り廻したる家上に至るして之をなし市民は熱狂踏して滿街裝飾を[illegible]我軍を出迎せし光景は愉快にも又壯絕なりき

▲遼陽驛と鐵嶺驛 又曰く露國の設備は凡て大陸的にして東淸鐵道の各停車場の如きも其規模廣大實に一驚を喫する程なり其間において遼陽は二等停車場なるを以て頗る宏壯の規模なるは[illegible]遼陽は要地に非ざるも北は奉天鐵嶺に通じ南は牛莊營口より旅順に通ずる要點にして東は撫順を控へ西は新民廳を有し所謂四通八達の地なるを以て軍略上茲に二等停車場を置きたるならんも而して鐵嶺は防禦地としては頗る恰好なるも策源地としては遼陽に比すべくもあらざれば露國は三等（或は四等）停車場を同地に設置せり然るに鐵道其物の主意に至ふべき商業は彼に非ずして是に在り鐵嶺は遼河の流を扣へたるをもつて解氷後は恰かも帆船林立の觀を呈するを常とせる是れ滿州唯一の物產たる豆類等は多く此鐵嶺以北に出で一たび同地に集り而して遼河の流を下りて營口に達するを以て自然土地の殷富に赴むきて遼陽市街は其比に非ず此要地に露國が三等以下の停車場を設置せしは其眞意の那邊に存在せしか察知するに難からず斯の如く鐵嶺は三等以下の停車場なるも其規模は我內地の停車場に比すれば決して同日の論にあらず其一例を擧げんか我軍の同地を占領せし當時停車場の一家屋に宿泊せしめしに尚余裕有しを見ても其設置の如何を見るを得べし

▲氣候と支那民 又曰く目下鐵嶺附近の氣候は頗る溫暖にして防寒外套の必要なく今日にては應除に着手する位なり斯くの如き有樣なるを以て揚柳は稍春色を帶び土人は畑の耕作に着手し始めたり奉天以南の土民は日本軍にして鐵嶺を占領せしを知つて最早露兵の南下する事なしと各其堵に安じ居れり然れども彼等は滿州一帶が日本の領有に歸せば如何に施政せらるゝか租稅も多大に賦課せらるゝにあらずやと取り越し苦勞多く故に我軍政署にては其安意に就て力めおれり

●海外移民禁止に關する訓令 外部は今回韓人の布哇、墨其哥へ移住するを嚴禁し一昨廿仁川其他の各監理に對し左の訓令を發せり
近來韓人の中布哇若くは墨其哥に移住するもの日に多きを致せり然れども同地方は元來遠隔の地域に屬し出稼人は自己若くは其家族の爲め歸國せんとするも容易に其目的を遂せざる場合多ければ一兩人が潜逃又は商業取引の爲め渡航するが如きは之を許可すべきも若し夫れ數千人集まり團体的に渡航するが如きは宜しく之を嚴禁すべし云々

日本文界に與ふるの書（五）

在韓 古山劍鳳

蘇峯が將來の日本に聲を揚げて明治文學前半期の思潮を開始し[illegible]に老耕の筆を施すは吾人の一大感謝を拂はんとするもなり、彼れが文調は流麗にして水の如く華麗樸々として春の如し、一文一章其の獨得の才色を紛末して當世又比肩するなし、而かも蘇峯の文は實質なく、理論の妙味なく、淡々として露を追ふが如し、其の精確なる評論眞摯なる叙說に至りては吾人遂に敬服する能はざるの点少なからず、近時の「日曜講談」漸く間壁に入りて老學師の說として避くべき点少なからず、而かも蘇峯が將來の日本に於ける當時より幾何の進步を見たるか、第二靜思錄に依りて一方に踏たる嘆音と幾何の進步を見たるか、[illegible]讀者が眼の肥へたるにあらずして彼れの不進步たるを免れざるなり。

足下よ、前半期の文壇の位置、文學の眞價、文士の態度に至りては種々として上述したるが如し、是れに依りて吾人は前半期が明治後半期に實るべき文學たる果樹に對しての幾何の花を咲かしめたるかを想へば轉た憫然たるものなくんばあらず。

足下よ、而かも過去は追ふべからず、寧ろ吾人は未來に生きざるべからざるにあらず吾更に未來の未來の未來に生きざるべからず、吾人は過去の文壇が悲觀的文壇なりしを知ると共に吾人は慈に滿天の愁雲を一掃して大空の一碧を認むるに努めざるべからざるにあらずや。

足下よ、然らば來るべき明治後半期の文學は如何なる實質と如何なる眞價とによりて以て所謂後半期の數章を裝飾せんとする乎吾人は豫言者にあらず、吾人は又好んで豫言せざるべし、何んとなれば吾人は今日に於て豫言するの必要を認めざれば也。面かも所謂後半期の明治文壇が堂々として世界の文壇を動かすも其の島國的文學としての態度を改めざりしも時代の運命と斯道に盡瘁すべき人士の精力とに依りて發達を期するを得ればなり。

吾人は明治前半期の文學者が其の天職たる斯道の爲めに畢して險難不拔の一大精神を妙輝して之れが經隆を期したるや否やに至りては吾人大に疑なき能はず、ヨシ〳〵所謂前半期の文學者が一大精神を以て明治前半期の文壇を開拓し耕蕪したりと宛呼しども、吾人は然爲の贊稱を献ぐるに躊躇するもの也。

滄々浪々錄（三）

劍鳳

◎平和主義者よ社會主義者よ そも〳〵

他動物に比して敢て喋々論ずる迄も無からん、汝は其高尚なる競爭よりて敗れたる弱者の爲めに強者を控かんとするはよし、然かも汝の勞は徒勞のみ徒勞は可也、汝ば煽動に依りて平地に破瀾を起さんとするは甚罪數すべからず

△以上余の說けるが如く根本に於て人類は戰鬪的動物なる以上は絕對的妄相觀なる平和主義は望み得べからず近き例を以ても見よ韓國と日本とは其の生存競爭の程度如何

△韓人の曖昧痴不能不文明なるは生存競爭の劇烈ならざるを意味す也、共に汝の所謂平和どもやら社會主義ともやらいふ幻相觀なるにあらずや

△ア〻社會主義者よ、平和主義者よ弱者よ、汝は長へに暗黑の境內に彷徨して可也。世は遂に強者の舞臺のみ。世は克く戰へ克く弱者を賂しもの、靜蠱なり。人道

汝の抱ける主義は一の夢想主義也主義にあらず。夢想觀なり、夢想觀にあらず、一の妄想觀なり。妄相觀にあらず一の幻相觀のみ。資本家と勞働者との權利の同一を計らんとする汝の幻想は根本的人類の撲滅を計らんとする破壞の手段也、何が故に斯く謂ふか

◎平和主義者よ ダアヰンの進化說を待たざるも生物が生存競爭のために生死するは當然免れ得ざる事實にして既に生存競爭なるものを生類より取除きすればは既に生類を撲滅したる時なり人類は宗教や教育に依りて野蠻なる競爭を試みざるも高尚なる無形的競爭に依りて各自の滿足を充たさんとする也、而して其の劇烈の程度は[illegible]もの弱者が強者を狂げんとしたる方便語のみ、吾人は弱者が人道平和を絕叫する聲よりも強者の絕叫に耳を傾むくるを當然とするにあらずや、アヽ弱者よ弱者よ汝は惡魔かれ、汝の弱き丈け吾等は吾等の得んとする滿足は求めらるゝ也、汝は吾等を惡魔と謂けん然り吾等は汝等の所謂惡魔なり吾等は惡魔の王冠を授けん行く處觸るゝ處吾は弱者覆滅の劍を翳さん弱者よ一步百步千步否永遠に弱者の舞臺を去れよアヽ樂しいかな蹂躙主義

◎「一擲一笑」 西來の媾和說は無論當てにはならぬが、併し多少基づく所が無いでもない、其仔細は斯うである▲露國は日露の大兵沙河を挾んで對陣し、將さに虎鬪龍爭の大戰を始めんとする際、巴里で外債を募集しやうと企てた▲ところが佛國の資本家は容易に之れに應せず、空しく躊躇逡巡する內に露軍は沙河に敗れ、奉天を失ひ、殆んど全軍の半ばを失つたので、佛國の資本家は益々露債に應ずるの大危險を感じ▲平和恢復の後でなければ此外債に應じがたしとて斷然刎ね付けた▲此外債談が破裂しては露國は何うする事も出來ねば、是非ともこれを纏めねばならぬ、之れを纏めるには平和の假面を被らねばならぬ、ソコデ露國はバルチック艦隊召喚の命を發したと平和の時期に近づきつゝある兆候だと大數を叩かせ、其れと同時に米國公使を經て平和の意嚮をほのめかした▲左れど價金拔きの條件で、全く我が意向を探らんとの腹意明々白々たれば、我れはケンもホロヽに刎ね付けた▲近來の平和說は此消息あるを走せに聞き出して報道して居るので後れが露國は自己の失敗を掩はん爲めに頻りに此平和說の打消しに勉めて居るのだと云ふ迄である▲例の老猾なる露國の事であるから、其同盟國たる佛國の資本家をペテンに掛ける位は何とも思つて居まい、其れにしても佛國の資本家ある畜犬に手を咬まれんとしたので、實に好い面の皮だ

講談

仇討 武勇の譽（廿九回）

□井竹林講演 本社員速記

重「時に藤助此の七八日は何處ゑ往つて居なすつた 藤「實は旦那樣一と口上げて御話しいたさうと存じました此の富山の御城下の少し放れました處に黑川といふ村がございます夫に黑川彌惣右衞門と申します鄉士で金滿家でございます 藤「此家の娘が御座いますおさせと申しまして中々の美人で先達て小松山に召遣ひをつれまして遊びに參りまして歸つてくると何うも身体が勝れません藩中の醫者は申すまでもなく私くしも招かれまして診察をいたしましたが皆な見る處が違ひます私くしが思ひますには怪物につかれて居るので何うも狐で付て居るらしく人間の脈じやアないといふことを私くしが言て出しました處が藩中の醫者が悉くそれをそしりまして何の高の知れたる[illegible]が世取るに足らぬといつて私くしは實に追拂はれまして夜々〳〵その彌惣右衞門の娘の座敷に詰まして夜の八ツ頃になると家鳴震動をいたします實に何うもそれは恐れ入りましたものでございます私くしも毎ばん參りましたがハッといふ恐ろしい音がいたしますで怪物が娘の座敷に參りますものと見へてヒソ〳〵話しが知れます妙な話しをするやうですがさゝめごとなどが屏風の外に居りますれば分るので夜が明けやうといふ時分に歸ります恐ろしく娘が名殘りを惜みますなんと妙な事があるものではございませんか 重「不思議だナ 藤「ア此頃は武術の指南番角部齋の御子息の大九郎といふお方が青山奥田伊淳なんといふ方もおつれになりましてお出になりますが退治る處ではございませんイヤハヤ何うも昨夜も私くしが其の大九郎樣や何かと一緒になつて居りました八ッ頃になると家鳴震動が始まります私くしは夫へうつぶしてしまいましたけれども怖々ながら御指南番角部樣の御子息大九郎樣は何うなすつたかと思つてソッと頭を持上げて見ますと形はございません眞ッ青になつてガタ〳〵震へて居ります所詮退治るといふ先生がさういふ譯でございますから跡の者はたゞ驚ろくばかり實に不思議でございます 重「アーさうか 藤「貴度旦那樣貴下樣なぞは天下の英傑といふのでせうが私くしは賴まれはいたしませんがさういふ理由ですから一ッ尋ねてやつて下さるあとは出來ますまいか 重「何にいと安いあとだ前が賴むとあれば參つて遣つても宜いしかし願はくはソンナ處へ立寄りたくない〇「旦那樣鳥渡何うぞ 藤「旦那私くしを呼んで居りますから鳥渡中座をいたします藤助は出て行くとしばらくして立つて歸つて來た「旦那樣たゞ今黑川の彌惣右衞門の家來奉太平といふ方がお出になりまして貴下樣に御目通りをいたしたい其の怪物を退治ていたゞくことで參つたと申しますが如何いたしませう 重「お前が私しのことを話したのか 藤「左樣です鳥渡話しをしたことがございます 重「しからば逢ひませう藤助は太平といふ黑川の召遣ひを倶ないまして座敷に參りました太平が只管重太郎に妖怪退治のことを願ひます 重「左程までの御賴みとあれば宜しい手前も急ぐ旅ではあるが病氣なかなつて當家に逗留をして居る何までも便〳〵として居られぬが今晩は直に御參らう時刻のよい時分に迎ひにお出下さるやう厚く太平は禮を述べて立歸りました夕景に至りますと駕籠をつらして迎ひにくる重太郎黑川屋惣右衞門方に行くと非常に鄭重に扱かひます角部大九郎始めといたして皆な詰掛けて居ります今晩岩見重太郎とやらいふものが當家に參つて妖怪を退治るといふが何んなことをするかしらと皆々かたずを吞んで扣へて居る ◎「岩見先生も一刻限が近寄りました娘の部屋にお出を願ひたうぞんじます 重「さうか宜しい」案內をしろ重太郎が案內をされてくると娘の寢間の屛風の外に火鉢杯を置まして傍をしいて◎「何うか之に御在を願ひます 重「イヤ之は娘の部屋でごな[illegible]

朝鮮日報

雜報

●長谷川大將の告示

昨日長谷川司令官の名を以て全州府に左の告示文を公布せり

　爾今全州府内外に於ける治安に關する警察は韓國警務機關に代り全州憲兵隊をして之を擔任せしむ

●報聘大使着京

韓國特派大使義陽君李載覺一行は昨日午前九時半新橋着滊車にて入京直ちに芝離宮に入れり、一行中には陸軍副將沈相薰、宮内大臣閔泳[illegible]、宮内協辦朴儀和、法部協辦李横相、陸軍正尉柳玩、陸軍參尉金應善、閔[illegible]御東親同尹致旿等あり、韓國顧問加藤增雄、宮内書記官吉田[illegible]一等之れが先導たり、新橋に於ける出迎人は林房次官、珍田次官、尾崎市長並に韓國公使等數十人なりき

●破格の謁見者奥村五百子

國事に奔走して席暖なるに遑あらず、愛國婦人會設立主唱者となりてより四方に講説して足跡海内に遍ねく遂に血を吐きし當代の女奇傑奥村五百子女史はその熱誠遂に會をして今日の隆盛に至らしめ去る二日を以て九段偕行社に大會を開き畏こくも　皇后陛下の行啓を仰ぐを見る女史が一生の事業は此に愛國婦人會の美果を結びたるものなるべしされば　陛下にも其篤志を思召され特に御前に召して優渥なる御言葉を賜はりしは　陛下の御仁慈は申すまでもなく女史の光榮これに過ぐるものあらんや

●露艦隊の目的地

ロジエストウエンスキー提督の率ゆる艦隊附屬の石炭供給船は爪哇嶋を經て香港に航行すべしとの命令を受けたり

●波艦隊の消息

十八日ノッシベを拔錨して其の蹤跡を晦まし居たる露國第二波羅的艦隊の所在については其後更らに聞く處なかりしが某所着の情報中には佛蘭西の抗議は同艦隊の出港を余儀なくせしめ同艦隊はマダガスカル附近の比較的[illegible]ての間を航行し全く本國との連絡を保ち石炭の如きも運送船に依り佛領海[illegible]外に於て移載しつゝあるが目下航行中の第三艦隊を待ちて之れと聯合せんとするもの、如しと又某新着電に依れば紅海を航行中なる波羅的第三艦隊は[illegible]シブチに着する豫定なり

●戰爭の終了期に就て

奉天附近の[illegible]の指揮を受けて[illegible]下退却に退却を重ね居るの露軍は一見戰ふ[illegible]して歐洲より傳はり來るも某外交家は之を虛僞なりとして打消し居れり其言に依れば目下諸種の事情に照らすに其虛僞の報たるや明白なり蓋し昨今斯る報道の頻繁なる理由を考察するに最も主要なるは露國が満般の失敗にも拘らず外債を募集せむとの計畫あるより暗に平和説を流布せしめて其成功を企圖せると他の一は平和の聲によりて日本國民敵愾の氣を弱めのへて出征將士の元氣を害はむとするに在り此他尚ほ半外交通の臆測よりは一は投機者流の計略等より出でたる、在れ共昨今に於けるものは實に前記二原因の結果に外ならざる可ければ日本國民は此の際大に警戒し傳説の爲めに迷はされざる様注意する事最も緊要なりとす云々又た印度タイムスは戰爭の終結尚ほ遠くして日軍益々奉天の北に露兵を擊退せむか哈爾賓以南の地を清國に還附する事は必ずや平和條件中重要なる一たる可し然るに今日の状況にては哈爾賓の運命は未だ容易に決定し難きものあり元來此地たる滿州の中央に位し此地方貿易の中心にして此地を保つ者は以て商業は勿論其他諸種の勢力を有ずべければ日本は兵力を以て之を占領するに非ざれば兵を斂ゆる能はざる可し故に若し一旦平和の問題論議せらるゝに至らむか吾人は未だ其期に達せりと信ずる能はず哈爾賓問題は其爭點の一なる可し又次に償金の問題あり蓋し露國政府は極度迄窮迫されざる限り亞細亞の一國に償金を拂ふを肯むぜざる可きに小にして貪なる日本は長期間の大戰爭に於て多額の軍資を費したれば戰後其勢力を回復し敵國の再擧を防ぐが爲めには必ず相當の償金を要求すべし是等の情態より推論すれば戰爭終結は未だ決して近からずと云はざるを得ずと論じたり

●旅順沈沒艦艇の引揚

旅順口内に沈沒せる敵の艦艇は我が手にて既に潜水作業をも用ひて巨細に其の損害程度を調査し終りたるが中には早く其の引揚に着手したるもあり、同所昨今の氣候は頗ぶる温かにて略ぼ内地と齊しく但た大陸風吹くときに限り寒氣嚴ノて[illegible]なりといふ

●駐韓米國公使モルガン氏

今回駐韓米國公使に新任せられたるモルガン氏は大學派の人にして其始メて政務に就けるはキモア委員書記長としてナりき其後間もなく朝鮮公使館書記官となり一時は辨理公使をも勤メしことあり其より墨國公使館へ轉勤し同地にて[illegible]臨時辨理公使となり後國務省に入り暫らく香泥[illegible]領事に任せらるゝまで在勤せり氏は結局現今の位置に就くべきを豫測し一年前再び東洋[illegible]上海に留まれり氏は比較的に若年なれど非常の才子にして且つ余程の財産家なり今政府政派に何等の係故なき氏が朝鮮公使となりしは偶々米國外交官任命の方針が近來一變したるを證するに足らんと北淸日々

[illegible]

●韓國警察[illegible]の後見

我政府は韓國の治安に一層鞏固にする爲め從來派遣せる警察顧問の外各道樞要の地方に我高等警察官を駐在せしむる必要を認め韓政府と之が取極め方法を講究中なるが既に通信機關も我が手に歸したる以上は前者も取急ぎ成立せしむる目論見なりと

●東洋汽船航路擴張

東洋汽船會社は日本及香港間の航路を擴張しマニラ、シドニー、ハノルル間に定航を開始せんとし目下社員數名を擴地に派し調査せしめつゝあり愈よ開始と決したる曉には目下米國に注文建造中なる二隻の巨船を以て之に充つる筈なりと

●酒、砂糖專賣の議

政府は近き將來に於て酒及び砂糖を專賣となさんとの議あり調査中なるが或は次期議會に右二種の内其何れかを提出するあらんと云へり

●鎭南浦居留民長辭職

鎭南浦居留民長河島鍛氏は一身上の都合にて此程辭職を申出でたるにより去三十一日の同所居留民臨時會に於て其後任者決定まで同議長原田鑛策氏を假民長とするに決したりと

●韓國に於ける郵便局（日韓兩國にて四百局）

韓國にある郵便局現在數は韓國側にても一等局十餘、二等局二十餘、三等局三百四十三餘にして我國の郵便局と雖も五十余の多數にたり合計四百余局を有し居れば合同の結果必ず通信機關の膨脹を見るべく隨て現在局數より一層多大の增加をみるべきやは疑ひなきも果して幾何の局數增加すべきやを數字的に公表するには尚多少の時日を要するなるべし

●韓國の種痘事業

一昨年[illegible]國に痘苗製造所を設けたる當時は韓人は一般に天然痘の恐るべきを知りながら種痘を希望するもの少なく隨って折角設置したる痘苗製造所も無用視せられ居りしも爾來我が渡韓醫師の盡力により昨今に至りては彼より進んで種痘を希望するものさへあるに至れば法律を以て種痘を强制するも最早苦情を訴ふるものなかるべしと

●大分縣の遠洋漁業

大分縣水産組合にては遠洋漁業隊編製の計畫あり理事月成元俊氏實地視察のため[illegible]先漁隊五十艘（漁夫二百名）を出[illegible]根據地と定メて近海各方面に[illegible]先つ天草にバラックを建造し[illegible]同組合[illegible]一時[illegible]の開拓より進んで[illegible]計畫にて[illegible]以て更に北韓方面の沿海にも一新漁場を開拓せん豫定なるが同組合にては之を縣民多數の對外的事業として永遠に持續せしむることを期し不日株式組織の會社を創立するに至るべしといふ

●日語學校設置の計畫

韓國前檢事たりし崔文玄及當地の富豪金鎭九金鷹植三氏の發起にて日語學校設立の計畫あり既に地を南大門の東觀町の所にして建築に着手する事となれり同校は主として日本語及韓國法律を教授する由なり當地には既に數年前より開城學生の設けあり今亦日語學校の新設を見んとす誠に喜ぶべきことなり

●漁具と潜海器

當港南濱町渡邊氏の談に依れば黄海道地方に於ては目下漁具を要すること夥しく先般來仝氏の手を經て同地に輸入されたる潜水具にても十餘に及べるといふ

●朝鮮運輸會社

今回金鳥山驛に朝鮮運輸會社なるもの起り日韓兩國旅客の手荷物其他小荷物等輸送の便宜を計る爲にて設立者は日韓兩國人なりといふ

●安東縣航路の初航

大阪商船の同航路は去月廿五日瑞鷹丸をして安東に向け仁川を出帆せしめ次航は五日奈賀川丸を安東へ向け鎭南浦を出帆せしむる筈なり

●上海香港線の開航

大坂商船の同航路は初航として昨四日ドライアン號をして上海に香け香港を出帆せしめたり

●金洲丸

唐津當港間を占斷し居る若津丸は目下破損の個所を修繕中なるを以て金洲丸を以て同航路を執ることゝなり同船は五六日前初航路を爲せり因に仝航路は日増旅客を增しつゝありと云ふ

●チャマー氏の日本行

韓國總稅務司秘書官チャマー氏は昨日當港出帆のチハヨー號にて日本へ向はれたり

●保育園開園式

は昨日午前九時三十分に同園内に於て執行せり

開城通信（六日發）

▲琴湖山架橋工事　當驛を西方に距る二三哩計り新制驛の此方なる琴湖江の鐵橋架設工事は數月前より着手日本工夫七八十名韓人多數を使役して其工を急ぎつゝあるが其竣成期は來る五六月頃ならんと同地より來りし人の談

▲火災保險の必要　近來當地の發展に伴ひ到る處家屋の新築盛んにして從來バラック的の假家乃至韓人屋の住居より一變して漸次體面を改め本式家屋に移りつゝあるは當地の一進歩として喜ぶべき現象なるが當地には未だ火災保險の取扱なく不便を感ずる向も尠からずと云ふ

▲朝鮮新聞社の擴張　尺尾旭邦氏の經營に係る當地南門外の同社は任來松山立志社に於て[illegible]を得なかりしか[illegible]不便を絶たざるより這同社内の活字[illegible]器械一切を讓り受之を同社内に据付け一層業務の擴張をなさん由にて昨今休刊[illegible]が爾後新聞は毎週二回の發行とし其[illegible]物の[illegible]ニ應ずる筈也と

▲天然痘　天然痘殆んど[illegible]撲滅一時當地の[illegible]の兆候ありし當地の[illegible]患者も概ね歸發り一名の患者は去る二日死亡したる由尤も[illegible]ニ該病の嫌ひある[illegible]きにあらざれど現に角邦人間に於ける該病は一先づ撲滅の姿となれるが韓人間には該病の流行止むことなきゆゑ何時何處に發生するやも計られず各自十二分の警戒を怠るべからずとなり

▲横尾警部の出發　運輸[illegible]警部駐在を命せられたる前當警察署警部横尾勇太氏は本日の一番列車にて家族引き纏め釜山に向け出發せられたるが停車場迄見送りたるもの甚だ多かりし

大邱通信（四月七日 特置員發）

▲公園地問題　當地の發展に伴ひ早晩公園地の必要をするは疑を容れざる所なるが當地には達城山なる天然の公園地あり西門外市場を離れ展望佳なる處にあり老樹參差として轉た遊賞に適す以て日韓兩國人の公園に充る孰れの点より見るも其當を得たるものなるが元來該地域たる數年前我兵隊に於て借り受けの約成り既に營舍の建築を見る迄の運びとなり居たるが當時同隊の爲メ都合ありて沙汰止みとなり[illegible]次第なるを以て同隊にして必要を感ぜざる以上該地を收容して當地の公園地と爲さん、然讓起り夫々交渉中の由に聞けば遠からず解決を見るに至らんか

▲鳥嶺の農事經營　大邱驛を距る西南約二里の處に於いて洛東江の支流に沿へる[illegible]潤の平野を見る此處時々洪水の流れある地味却て膏沃地價低廉なるより邦人の該地に着目するもの多く現に[illegible]巖洞附近の一帯數十万坪に渉るの地は悉く邦人の所有となり夫々標木を立て桑苗松樹を植付けたるもあり尚ほ追々本邦農民を移して農業を營せん計畫あるものなれば該地は遠からざる將來に於て日本的一農村を形造るに至るべし

▲社交倶樂部成らん　當地には慈善會同志會其他種々の會合なきにあらざるも皆一局一部の機關なるか若くは一派の臭味を含めるものにして當地の全体を網羅したる純然たる社交的會合に至ては殆んど之れなくため相互間の疏通を缺ぎ一致の運動を爲すに困難の點あれば這回有志者間に於て大倶樂部を組織せんとの議あり遠からず成立に至るべしと思はる

◎憲兵の駐屯　凡そ一週間斗り前憲兵尉官以下十餘名當地に來着せしが[illegible]方面に配置せし[illegible]官以下七名當地に駐屯する事となりたれは去る廿七日[illegible]に舍設し[illegible]分隊屯所を設けたり

◎軍醫來院　矢島軍醫の北進以來[illegible]し患者療養所には後任として此程見習醫[illegible]本初太郎氏來院せり因に同院には當時入院患者五名鐵道關係の軍人軍屬等の來院受診者日々十餘名ありとの事なり

●公衆電報　取扱當地には是迄軍用通信の設けありしも公衆電報の取扱なく韓國内地ニは僅ニ韓國電信ニよりて用を足し得るも日々內地及臺灣等ニ對するのは仁川京城等の知己友人に中繼を賴むの外なへ非常の不便を免かれざりしが來る四月一日よりは通信所に於て公衆電報の取扱を開始せらるゝ事となりたれば在留邦民は更らに一般の便宜此上なかるべし

●證書授與式　日本小學校にては去る廿八日卒業及修業證書の授與式を擧行し總代學務委員評議員父兄等多數出席し頗る盛會なりき尚同校には是迄尋常科卒業生には補習科として二三重要學科の教授をなし來りしが四月一日の新學年よりは高等小學全科教授を行ふ事となりしと云ふ

●新渡韓者に就て所感　淺邊富一

今や我邦朝野を問はず老幼と論せず滿韓經營の聲日々益々喧囂を極め從て新渡韓者の數殆んど計る可からざる勢あり國力發展の好時期今日の現象は國家の爲メ殖產事業の爲メ大に慶賀すべきなり而して熟ら渡韓者の現在を見るは其一部は一擧忽にして巨万の財を求めんと欲し又得らるゝもの信じて渡韓するもの多し然るに事實は大に是と反對し進退に窮する者さへ在りと聞く素より其失策は唯其人輕擧にして深慮なき結果なりと極端に論ずればこれ迄なりと雖も此際其失策を問はずして益々奮てその人に對し可分的便宜を與へその失意を慰むるも人情の然らしむ所否同胞として先渡韓者たる諸氏の美徳なりと信ず希くは滿港諸兄よ一讀の榮を賜はり謹んで御教示あらんことを希望す

제66호 1905. 4. 9.

朝鮮日報

八角棒　やつこ

◎當釜山には陸戰にして頓馬にホツトンに阿呆に馬鹿げたる者の多き事也、世にあつて徒らに義を裝せんよ。寧ろ龍頭山に程好き松ぞも見付けて縊死するか、玄海灘に身を投じて此世を去り幽冥の鬼に合唱演獸する方却て彼等が爲なり利なり、世に對しては忠義者也と人は賞むるかも知れず、なれど意久地なき彼等にはそれ程の勇氣は失禮ながらあるまじ、啣嚼性なき製造器よ。

◎寄れば笑に流れて得る所なく名のみ立派に實はなく、唯軒頭の金看板を見る所あつて目前の小利に齷齪し永遠の大利を誤るなく、稀れに永遠の企圖をなす人あるも大言壯語實行の人たらず、言論の人となつて遂に人を煙に卷いて五里霧中に彷徨せしめ徒らにお饒舌の人となつて止む、哀れむべし其心情。

◎無駄のお金を持てるも彼等也、威めと云ふべし、相撲來らんか義太夫來んか芝居來んか源氏節の來らんか、千金を惜まず纏投し之に人氣を添えて馬鹿氣たるホツトン職きをなすは彼等也。

◎止めよ、床屋に湯屋に剝金やつて大きな面するを、芸妓や料理屋に行つて五十錢一圓の纏布を仲居に打つて旦那面、大盡顏するを、寧ろ〳〵路傍の乞食に遣つて慈善家振る方が余程まし也。

芸妓、料理屋の纏布、興業物の目錄、何にかある、済んで仕舞へば水の泡と消へて屁程の價値も出ず、お顏云ふ人も稀れに唯チヤホヤと持ち上げられて夢に醒めたる雀のやうな也。

◎あんな事するは平和の時に也、戰鬪納まつての後の事なり、今や國家の安危に關するの秋、此を以て須らく國家に纏布せよ、義勇艦隊に貢げ此等の事は過去にも未來に於ても願ふとて到底出來得ざる美擧なり、有り余つて無駄に使ふお金否必要な金と雖も深よく之になせ、御本人の價値前者よりも幾倍を增さん。

◎可なるべし、義太夫相撲に之を爲すも、なれども考へせよ、義太夫相撲等の興行物は木戸錢を取るなり、祝儀代を取るなり、之を以て糊口の資に與ふる事り、而かも目錄に金迄で添ゆるは[illegible]人氣商賣の人種を添ねてやれば足る[illegible]に[illegible]

者は百金を、百金は十金、[illegible]開は五十錢、五十錢は十錢、十錢は[illegible]を添ゆれば濟む、[illegible]は[illegible]、何んな[illegible]で濟む也、併し是[illegible]馬鹿野郎[illegible]する[illegible]也

丁度兵等の如き白痴[illegible]する[illegible]なる[illegible]は今の秋に到底眞目[illegible]面しては出來ぬ[illegible]仕事也。

◎國家に獻せず國債に[illegible]し[illegible]社會[illegible]々稼ぎ稼ぎ[illegible]らんと

あせるの秋は、また彼等よりも[illegible]めた代物なり。

◎口やかましき[illegible]に申す[illegible]釜山青年の腐敗を口やかましく程口する人あるも實に片腹痛き事なり、口する御本人あその實[illegible]も行ふ事を仰いでつばすの人、寧ろ云ふよりも行へ、個人を以て社會を成せるを、個人の腐敗するは軈いて社會の腐敗、個人の矯正は社會の矯正、御本人御本[illegible]に[illegible]さらばそれで濟む事、强いて言ふには及ばず、併し釜山居留の青年に於て此事を云ひ出すの人あるはまだ〳〵有望と云ふべし。

◎そんならば奴がんな事を言はんでも宜い事なれど行ふとて金はなし、仕方なしに唯々惡を衝いて此事を望むぞ是れ奴が一片の婆心より出でしもの、幸ふ諒せよと、終に於て舌鋒をよき御批評申す事乙んな者なれど賞すべし、鬼面の奴にもやさしき所見ゆるあるを。

▲鬼門氏の御高評に答ふ　爛紅女

自分の一駒とメて水乙ろ岸の草若叢[illegible]の句に就て御高評を賜はる[illegible]に臨んで他の轉作と御鑑定は實に恐縮千萬なり、併し自分は素養ナろど申す事更になく幼な頃今は世にナき父の常に嗜みたるを聞きかぢりて唯十七文字てよ事だけ記臆し居る位の事にて種々の文ども調べ詞相を養ふ程のひとまもナき世話しき貧乏世帶に追ひまわまるゝ身ゆづゑい、事に觸れ物よ感じはじメて湧き出づる感相を言ひナらぶるに過ぎざれば御評中岸と土手との用ひ處を誤るナどは尤も其一般とも申すべきか何さま過ぎたる物を賞び遂す如き快からぬわざは自分は元より之の事ニても見過さゞれぬ質ナれば今後の御參考に迄一言申述候

追て長閑さやは紅月ぬしの御作句ナれば序でナがら申置く、自分のは駒ぞめてと村童との二句ニ御座候

● 佐賀縣人懇親會　佐賀縣出身[illegible]の重ナるへに相計り近々同縣人の大懇親會を開催する計畫中ナりしが愈々本月下旬[illegible]に於て開會する事に決定されしが時日等は未定なりと

● 盆栽の流行　韓國の[illegible]始されてより當港一般盆栽の流行を爲し居るもの如く聽く本邦内地に滯在して同盆栽を購求し來れるものさへある樣ナりと

● [illegible]寫眞　[illegible]町各樓の藝妓の寫眞目下日韓寫眞舘に於て製販中にて本月中に百廿余種は完結せし[illegible]にて[illegible]告げたる[illegible]ナりと

● [illegible]文（[illegible]した主は誰）[illegible]性分付いての[illegible]三面[illegible]おとお怒[illegible]君[illegible]さんの[illegible]

● [illegible]人通り繁げき南濱[illegible]の[illegible]

昭和十一日

料理の栞

○具入玉子厚燒　椎茸を四ツ斗湯に漫して茎を去り酒砂糖醬油にて味附け其煮汁よて馬鈴芋蕷を微塵に切りたるを味附け歎の椎茸貳つ同樣に細かく刻み玉子三ツ器に割込み貳拾摘の酒盃匙の砂糖少々を加へ夫れに有合せの雛肴か牛肉を菱形に切りて共に攪き交せ玉子やきに油を引てぬるく上下火にて焼き角に好き程に切り

○浸菜　千切大根の干たるに熱湯を注ぎ引上げてしぼりにんじんを貳寸斗りの長さに細切どし糸にんじんとなして前の貳つの味附椎茸を細長く切り酢砂糖醬油からし摺胡麻を器に入れて能く攪き交せたる中に前の千切大根と共に入れて交せ合はし組板の上に能くぬらしたる布巾を置き其上に廣げ葉をのせて酢の酢を手に附けてしめし手切をしぼりて母指程の椎茸にんじんを程能しあしらひて巻き鍋に茶香椀貳杯の油を煮立たせて浸菜巻を轉がし五六分の輪に切るべし煮りの酢をかけるときは味ひ更らに登段なり

▼拾はれて職に名も立つ紙の艶▲

一筆染め上げ〳〵さてとやれんもさまには其後如何御くらし遊ばし候なから案じ〳〵亦ながら此程松井座にてふとれんるさまにおメもじいたし候てよりあけてもくれても御さまの事ばかり想はねばては只の一時も座なく候一度ちかずきいたし度の心の中をおしほ度とは存候共つい心にも心にとがメられ日々憂きに心を沈メられ候どころ、あまり戀しさに堪えかね、おはづかしながら墨染め〳〵何卒〳〵妾をふびんと思召し明晩九時頃より松井座までお出かけ被下度吳々も神より厚く念じ上げ參りあら〳〵かしこ（原文の儘）

四月六日　きみ江より

ひこじろさま

天氣豫報

北又は東乃風曇　但少雨

社告

活版見習　秋月　磨

右者昨日限リ退社致したるものに付自今本社に關係無之候也

朝鮮日報社

廣告

電話讓受たし

不用ノ御方ハ日報社内赤澤へ一報オ乞フ





상등지권연초
히이로
上等紙巻煙草
HERO
10 CIGARETTES
MANUFACTURED BY MURAI BROS. CO., LTD. TOKYO, JAPAN.
Push this end
히-로-